# 私が関わった情報システム開発プロジェクト

## 情報システム開発プロジェクトの概要

損害保険会社Ａ社はインターネットでの自動車保険や傷害保険などを販売している。市場のがんや先進医療に対する補償のニーズにこたえるため、このたび医療保険に新たに商品を増やすことになった。その際に今後の市場のニーズに迅速に対応できるように、汎用機で構築された現行の医療保険向けシステムを、オープン系のＷｅｂシステムとして再構築することとなった。当医療保険再構築プロジェクトを情報システム開発会社であるＢ社が受注し、私がプロジェクトマネージャに任命された。

## プロジェクトにおける費用管理の仕組み

各メンバの作業時間とＷＢＳの各タスクの進捗状況について、毎日の業務終了時にプロジェクトリーダから報告を受け、翌朝に集計して人件費と進捗率を把握する仕組みを作った。

# 予算の超過につながる予兆と、それを発見した際に行った対策

プロジェクトマネージャは、予算管理において、対策の遅れによる予算超過が発生しないように、予算の超過につながる兆候を敏感に察知して対処する必要がある。

## 私が発見した予算の超過につながる兆候

私はプロジェクト実施中に、次の予算の超過につながる兆候を発見した。

1. 外部設計書レビューにおけるコメント数の増加（誤りの指摘や質問項目数）
2. 各工程における未解決課題一覧の項目数の増加

## そのように判断した理由

兆候①について、外部設計書に対するコメント数が増加する場合、品質不良が懸念される。外部設計書の品質不良は、後工程でのやり直しや実装漏れにつながり、修正対応に費やされる人件費が増え、予算超過につながる可能性が高いと判断した。

兆候②について、未解決課題が多い場合、進捗が遅れる可能性が高い。部分稼動やファスト・トラッキングが適用できない場合、進捗回復のために人員増加を余儀なくされ、予算超過につながる可能性が高いと判断した。

## プロジェクトの目標を守ることを前提として実施した対策

兆候①について、コメント数が一定数を超えた場合、チームリーダに品質調査を実施するように指示し、問題がないか確認するルールとした。

兆候②について、各課題ごとに予定解決日を設定し、予定解決日を越えても解決していない課題及び予定解決日まで残り日数が少ない課題を重点的に管理することにした。

# 私が行った活動についての評価と今後の改善点

## 私が行った活動についての評価

前述の取り組みによりプロジェクトの予算超過の兆候に早めに気づくことができた。そのため早めの対策により予算超過を防止することができ、立ち上げ時に作成したプロジェクト予算の範囲内で終えることができたため、当プロジェクトはおおむね成功だったと評価している。

## 今後の改善点

今回は幸い予算超過することはなかったが、予算超過しそうな兆候とその管理方法についてプロジェクト完了報告書にまとめ、社内のプロセス資産としてベストプラクティスをあつめ、今後のプロジェクト開発に生かしたい。

以上